

斜里地域スキルトレーニング（OPS#5 1 in 斜里）のご案内

幹事 上見 崇(斜里消防署)

枯れ葉舞う季節、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。

さて、このたび旭川医大第一病理の玉川進先生が来町され、OPS(興部進歩の会)の出張開催が斜里町国民健康保険病院のご協力により実現いたしました。玉川先生とOPSにつきましては、別紙をご参照ください。

今年2月改定された日本版救急蘇生ガイドラインの医療従事者版においてもっとも重要なのは質の高いCPRとなっており、救急隊員と病院の相互理解の重要性がますます高まっております。日ごろより病院との関わりが深い救急救命士だけではなく、全救急隊員と病院関係者を対象といたしまして、更なる顔の見える関係と斜里地域住民への救急医療体制の向上を目標に、日本救急医学会ICLS(※)のエッセンスを利用して、新ガイドラインによる医療従事者向け心肺蘇生法を中心とした1次救命処置(BLS)のスキルトレーニングを企画いたしましたので、ご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

記

日 時 11月26日(月)18時より19時30分まで
場 所 斜里町国民健康保険病院1F会議室
現在予定している内容(実技を主体に行います)
1 ICLS のデモと解説
2 BVM を使用した気道管理
3 AED の使用方法
4 BLS(病院内での2人法・職務外 CPA で、バイスタンダーの確保)
そ の 他 終了後20時より懇親会を予定しております

準備の都合上11月15日までに参加者の連絡をいただけますようよろしくお願いいたします。

OPSのサイトの開催予告 <http://ops.umin.ac.jp/ops/info/yokoku.html> からも申込可能です。

※ICLSとは、「Immediate Cardiac Life Support」の頭文字を取った略語です。医師卒後臨床研修の必修項目として、学習目標を「突然の心停止に対して最初の10分間の適切なチーム蘇生を習得する」として「ACLS基礎(ICLS)コース」を設定し、2002年10月から各地で主催し、2004年4月からはコース認定基準を設けて実施されています。当初、研修医のためのコースとして開発された“ACLS基礎(ICLS)コース”ではありましたが、あらゆる医療職が受講して共有可能なその内容に加え、共通の内容を異なる職種の者が一同となって学ぶというコースデザインが受け容れられた結果、現在では地域におけるチーム救急医療教育の重要な担い手となっています。

「ICLSのサイト (http://www.icls-web.com/icls/icls_about.html) より抜粋」

玉川進先生のご紹介とOPSについて

玉川進先生は、プレホスピタル分野の中でも特に消防活動に深く関係する分野での活動が著名な先生でありまして、JPTEC（日本救急医学会公認の病院前外傷教育プログラム）における指導や、月刊消防の救急隊員講座等の連載を初めとしてご活躍されております。昨年の月刊消防に連載されたAHAガイドライン2005の解説は多くの方が参考にされたことかと思えます。

今回、財団法人北海道対がん協会の循環検診により斜里に来る運びとなり、この勉強会の開催が実現いたしました。

第一病理学講座 (<http://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/pathol1/>) 助手、麻酔科指導医、集中治療認定医、ペインクリニック認定医

OPS（興部進歩の会：<http://ops.umin.ac.jp/>）とは、紋別地区消防組合消防署興部支署において行われている病院前救護（プレホスピタル・ケア）・救急医療勉強会の名称です。その名のとおり興部での勉強会として発足しました。その勉強会が広がり、歌登や稚内、利尻さらには積丹、安平、富良野等々全道各地で開催され、斜里での開催が51回目となります。「特別開催（道外等）を除く」。その活動内容は、勉強会の開催だけにとどまらず「救助隊員のための外傷アプローチ」の出版にまでいたりその活動の効果はますます広がりを見せております。その会の幹事長として玉川先生は中心的役割を担っており、ホームページ管理者として活動の内容や結果報告、月刊消防やプレホスピタルケアへの論文等も掲載されており、WEB上でも全国レベルで高い評価を受けている団体です。

具体的内容についてはホームページをご覧ください。